
LOVE (詩)

永逢托都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

LOVE（詩）

【Nコード】

N1361B

【作者名】

永逢托都

【あらすじ】

詩です。時の流れは、あんなにも鮮やかだった二人の空気を冷めさせる。けれどももし、連れ添ってきた相手がもうすぐいなくなってしまうことを知ったら？人は、失うときになって初めてその大切さに気付くものなのかもしれない・・・

僕らはいつの間に

多くを求めすぎていたんだろう

互いがただ在ることこそ

大切にするべきだったね

いつかは別れるってこと

ずっと忘れていたみたいだ

寄り添ってきたはずなのに

なんで虚しくなってたんだ

大切さをいくら説かれてみたって

僕らは僕らの速度で歩いた

今更何ができるだろう？

もうじき君は僕を置いて旅立つ

君が僕に

僕が君に

あげられるものがあるとすれば

ただ一言

「愛してる」

君と僕が

僕らの速さで

歩いてきた今日までの日々は

今のために

きつとあつた

顔を合わせてはいつも

互いに詰ったり貶し合ったり

でもきつと心の奥で

繋がっていたと信じたい

「別れの予感」なんて

余りにもあっさりしてるものだ

今更悔やんでみたって

僕はすぐに変わらない

喪おうとしてる者の重さだけ

僕の手の中に残るのかな

思ってたより切なくて

君と初めての出逢いを思い出した

君が僕に

僕が君に

あげられるものがあるとするば

ただ一言

「愛してる」

君は言った

「別れが近づいてみて分かったことがあるのよ」

純粹ないとおしい気持ち

意地を張り合って

気付くのが遅すぎただけだと

今なら思えるよ

僕ら確かに人並みに

愛し合ってた

君が僕に

僕が君に

あげられるものがあるとするば

ただ一言

「愛してる」

君を僕が

送り出すとき

僕はちゃんとさよならを言つて

君を見送れるだろうか

きつといつまでも愛してる

きつといつまでも愛してる

（後書き）

長さはあまり意識していませんでしたが、夫婦をイメージして書いてました。旦那さんが奥さんに贈る気持ち。今年一番に思い入れが強い作品になったかも・・・。一応歌詞です。歌いながら言葉の響きをチェックしているとき泣きそうになりました。珍しい出来事でした。飾り立てることも綺麗な言葉を使うこともあまりなく、大人の男性の生の気持ちってどんなだろうと考えながら書いてたからかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1361b/>

LOVE（詩）

2010年10月16日02時55分発行